「日々の理科」（第 1864 号） 2019,-8,16

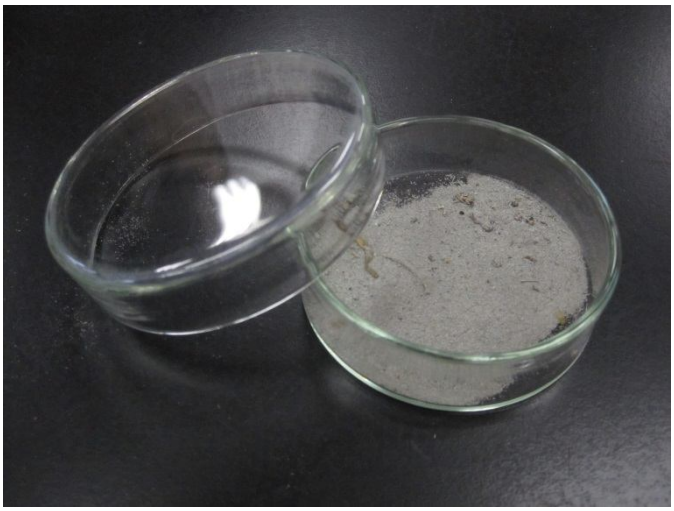
「8 月 7 日の浅間山の微噴火（８）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

火山灰をたくさん噴出するような大きな噴火の場合、火山から数キロ圏内で降灰軸の真下なら、積灰は数 mm～数 cm にのぼり、採取は容易である。しかし、今回の噴火のように、小さな噴火で噴火継続時間も数分間という規模では、火山灰の採取は困難なことが多い。また、噴火中や噴火後に雨が降ると、積った火山灰は、あっという間に流れ去ってしまう。火山灰採取は、噴火後の「初動」が非常に重要なのだ。



写真は 2015 年 6 月 29 日に、箱根の大涌谷火口から噴出した火山灰である。箱根の早雲山在住（火口から 1.5km）の友人に頼んで採取してもらった。この火山灰が貴重なわけは、12 世紀以降、箱根火山が初めて噴出した火山灰である・・・という点だ。

私は、浅間が小さな噴火をすると、浅間園直下の陸橋（有料道路を跨ぐ橋）の欄干で採取することにしている。ここは上に樹木などの障害物がなく、欄干も比較的太い。常に雨に流されていて表面がきれいなので、噴火後に何か付着していれば、火山灰の可能性が高い。

付着していた白い粉末には、わずかに雨粒に打たれたあとが残っていた。これはつい最近付着した証拠で、色やザラザラした質感から見ても、今回噴出した火山灰だということは疑いがない。

この程度の量の火山灰の場合、かき取って、袋に集めるのは難しい。こうした場合、タオルでふき取るのが良い。他の鉱物（砂や土）が付着していない、新しいタオルを使うことが大切だ。私は車検屋さんにもらって車の中にあった、新品のタオルを使って採取した。